

## 産業イノベーション委員会

## IoT・ロボット活用術を探る視察会in神戸

産業イノベーション委員会では、最新技術の展示会や生産性向上に取り組む企業への視察会を実施している。今回は省人化・生産性向上に向けて“IoT・ロボットの活用術”を学ぼうと、9月6日に最先端の産業用ロボットが揃う「川崎重工業(株)」のロボットショールームと、IoT活用に取り組む中小企業「旭光電機(株)」の2社を訪問。企業の経営者や現場管理者を中心に19名が参加した。



双腕ロボット「duAro (デュアロ)」

最初に訪れた川崎重工業(株)(神戸市)は、日本で初めて産業ロボットを開発し、自動車産業の発展を支えてきたパイオニアだ。西神戸工場内にあるロボットショールームでは、自動車の溶接や塗装など、ロボットの現場での活用シーンを忠実に再現しており、当社の多種多様なロボットがどんな作業ができるかを見学することができる。特に同社は、今後更に深刻化する労働人口不足を見据えて、業種や企業規模に関わらず、あらゆる産業にロボットを普及させていくための開発を進めている。人と協業できるロボットをテーマに開発した、双腕ロボット「duAro (デュアロ)」は、人間と同じサイズで、ウレタン製と柔らかく、軽量で



ロボット溶接を再現したショールーム

移動が容易などの特徴を持つ。また、複雑なプログラムを必要とせず、タブレット端末で直感的な操作ができるなどユーザーの利便性についても考えられている。参加者からは「月18万円からリースをできることは魅力的。社内でロボットの活用について検討したい」との声が聞かれた。

次に訪問した旭光電機(株)(明石市)は、自動ドアのセンサーや、鉄道・船舶のドア制御装置等を製造する従業員200名規模の中小企業である。管理者が工場の稼働状況を把握できるように、RFIDタグやセンサーなどを用いたIoT技術を駆使して「工場見える化」に取り組んでいる。工場見学では、オ

ムロン製の自動搬送ロボットに自社製のセンサーを取り付け、コンベヤや垂直搬送機と連動させて、部品等を次の行程に搬送する仕組みについて説明を受けた。多額の投資をせず、自社技術も活用しながら知恵と工夫でIoT化に取り組む姿勢は大変参考になった。

今後、中小のものづくり企業だけでなく、飲食・サービス業等人手不足が懸念される業種においては急速にIoT化やロボット導入の動きが活発化することが予想される。当所では全国の様々な先行事例を検証し、会員企業の参考となるよう情報の収集提供に努めていく。



旭光電機の担当者による説明

お問い合わせは...

福井商工会議所産業・地域振興課

TEL 0776(33)8252